

1 学校教育目標 自らを、友達と、地域を大切にし、 未来に向けて伸びゆく津保美の子の育成	2 本年度の重点目標 ①子ども同士の関わりのある教育活動を重視する。 ②教師が相互に指導力を高め合い、児童が楽しく分かる授業づくりを推進する。 ③児童に寄り添い支援することのできる生活指導、教育相談、特別支援教育を充実する。 ④ふるさとを愛する教育「牛津学」を推進する。
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①子ども同士の関わりのある教育活動を重視する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○主体的活動の推進	児童会活動等の活性化	・集会活動や委員会活動等では、毎回児童の主体的活動の場を設定する。	・児童集会、代表委員会などにおいて児童が計画運営できるようにする。 ・児童の考えを生かし、活動できる場を設定する。	児童会活動	三上 福田
教育活動	○異年齢集団による活動の充実	縦割り班活動の促進	・80%以上の子どもが縦割り活動のよさや6年生への感謝についての感想を残す。	・遠足・遊び等の縦割り活動の目的を明確にし、計画的に実施する。 ・活動後の感想、感謝の言葉を書かせる活動を行う。	縦割り班活動	松尾咲
②教師が相互に指導力を高め合い、児童が楽しく分かる授業づくりを推進する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○教職員の資質向上	教職員の意欲と資質の向上	・全職員が、年1回以上、他の教職員に授業を公開し、成果や課題を見出し共有する。 ・年3回以上、校内職員を講師とした研修会を開く。	・視点を明確にした校内研究に取り組み、指導法の具体的な蓄積を図る。 ・校内職員を講師とした研修会の実施により、職員の実践意識を高める。 ・校時表に、各部会や各種委員会の実施を位置づけ、課題の改善に向けた話し合いが計画的に行えるようにする	校内研究 教務部	坂井 教務
教育活動	●学力の向上	基礎基本の定着と活用力の向上	・県学習状況調査等で県平均を目指す。	・立腰、授業後の振り返りなどによる落ち着いた授業環境、学習規律の場作りを推進する。 ・「きらきらタイム」において、つける力を明確にした問題づくりやできるまで繰り返す全職員参加の指導体制づくりに取り組む。 ・「つぼみタイム」で、話し合いの目的や視点を明確に提示し、話し合い活動を活性化させる。 ・指導法改善担当主導による単元導入前の打ち合わせなど、担任との連携強化により「チームティーチング」「少人数指導」の充実を図る。 ・「家庭学習の手引き」の配布、「家庭学習がんばろう週間」の設定など、家庭学習の充実に向けた児童、保護者への働きかけを行う。	学力向上担当 指導法改善	野田 坂井 永洲 西山
教育活動	○読書の推進	図書館教育の推進	・低学年は一人150冊以上、中学年は一人100冊以上、高学年は一人50冊以上借りるよう、読書習慣の定着と向上を図る。	・朝の読書タイムを週1回実施し教師と一緒に取り組む。 ・読み聞かせボランティアを活用する。 ・図書館祭りを実施する。 ・つぼみ文庫を活用し、読書の質を上げる。	図書館教育	堂角田
③児童に寄り添い支援することのできる生活指導、教育相談、特別支援教育を充実する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	道徳教育や体験活動による豊かな心の育成	・年間指導計画にそった道徳教育を行う。 ・ふれあい道徳の授業公開をし、その趣旨を保護者に伝える。 ・計画的に体験活動を学習に取り入れる。	・各学年で体験活動を年間計画に位置付ける。 ・「特別の教科 道徳」の評価の在り方について研修を行う。 ・「命の学習」、性教育など、学校の心の教育の取組について、保護者に情報公開をする。	道徳教育	田中
教育活動	●いじめの問題への対応	相手を尊重し、認め合う仲間づくりの取り組み	・いじめの早期発見、早期対応に組織的に取り組む。 ・学級経営における支持的風土づくりに取り組む。 ・いじめをなくす意識を涵養する。	・Q-Uテストを実施、分析し、よりよい学級づくりの対策を講じる。 ・いじめ・命を考える日(毎月10日)と連動させた「月の心(作文)」アンケートを実施し、いじめの早期発見につなげる。 ・児童連絡協議会を毎月開催し、児童理解や対応の共通理解を図り組織で対応する。 ・無記名式アンケート、記名式アンケートの内容、精査の方法の基本的な取組方法を規定する。 ・いじめが疑われる事案の情報共有や記録の基本的な取組の規定を作成する。 ・いじめをなくすための委員会や学級の自主的な活動を促す。	生徒指導	井手
教育活動	○人権・同和教育	人権・同和教育の充実	・一人1回以上、人権・同和教育の研修に参加する。 ・年間指導計画に基づき、人権教室の充実を図る。	・「縦割り列車」・「人権教室」等、年間を通した取り組みを行う。 ・「ほかほかことば」を奨励し、一人一人を大切に育てる。 ・「なかよしの木」や「人権集会」を開催することで、人権意識の向上と充実を図る。	人権・同和教育	富吉

教育活動	○教育相談	定期的、日常的な教育相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や児童のニーズに応じ、年間を通じて、一人あたり2回以上の児童との面談、3回以上の保護者面談、直接的な連絡を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「月の心」、年1回の「セルフエスティームアンケート」、年2回のいじめアンケートと連動させた全児童との教育相談を実施する。 児童の登校状況を把握し、家庭との連絡・連携を図る対応体制を構築する。 スクールカウンセラーの計画的活用を図り、関係機関につなぐ。 保健便りや学校便りで、学校の相談窓口・体制の広報を行う。 	教育相談	鍋島
教育活動	○特別支援教育	特別支援を要する児童の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 課題を抱えた子どもに対する共通理解を深め、専門機関との連携を通して、個に応じた指導・支援の充実を図る。 特別支援教育に関する児童への理解を求める場を設定する。 特別支援教育に関する保護者への周知の場を年間、2回以上設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回児童連絡協議会を開き情報を共有する。 困り感のある児童や学校への不適応状況が見られる児童のケース会議を行い、市児童センター等に相談し支援方法を学ぶ。 個人カルテを作成し、個に応じた指導・支援を継続する。 PTA総会や新入生保護者説明会で特別支援教育に関する考え方や学校の取組の現状を話し、理解を求める。 年度当初に特別支援教育に関する研修を実施する。 	特別支援教育	中島

④ふるさとを愛する教育「牛津学」を推進する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○学校経営方針	本年度の学校教育目標の周知	保護者や児童の学校教育目標の認知度を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会等で児童に対し、具体的な例を挙げ説明する。 学校だより、PTAの会合の場を利用して、具体的に説明する。 	教務部	校長
学校運営	○開かれた学校づくり	地域連携の促進	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動に地域人材や外部人材を50人以上、授業時間数80時間程度、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学習材や地域人材、外部団体の効果的活用を各学年の教育活動に位置付ける。「津の里学習(牛津学)」 PTAと連携した学習活動のさらなる充実を図る。 新たな学習サポーターの仕組みの構築に取り組む。 	地域連携	校長 教頭 教務
学営校運	○情報発信	ホームページの充実	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新をこまめに行い、地域、保護者が見たくなるページの工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の行事予定、学校からのお便り、学習状況等の更新を定期的に行う。 	ICT教育	田中

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の推進、多忙感解消	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 時間外勤務の削減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 タイムマネジメントを行うと共に、定時退勤日の確実な実施を行う。 	教務部	教頭 教務
教育活動	●健康・体づくり	健康教育や食育等の実践	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践を通して、健康な身体づくりや意識向上を図る。 朝食喫食率100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツチャレンジへの取組を促す。 学校栄養職員と連携して食教育の実践に取り組む。 保健衛生指導の充実を図る。(保健便り等) 体力づくりの充実を図る。(マラソン大会、マラソンバトル、外遊びの奨励等) 	保体部	八木

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目